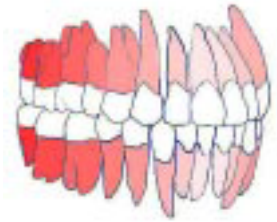


歯根の消毒について



西村歯科医院

虫歯を放置しますとC1からC2へと虫歯が進行し、さらにC3（神経まで達しているもの）の状態になります。

神経まで虫歯が進行しているからといって、必ずしも痛みがあるというわけではありません。虫歯の痛みは歯の内圧が高まることによって生じるもので、徐々に進行して慢性化している場合や、歯冠（歯の頭の部分）の崩壊が著しい虫歯の場合には、痛みもあまり感じないことが多いようです。

I. C3には大きく分類して3種類の病態があります。

- i) 歯髄炎・・・神経は生きていますが、虫歯の穴から細菌感染している状態。初期では水がしみることもあり、進行すると熱いものでしみるが氷を口に含んだりすると痛みが和らぐこともある。何もしなくてもズキズキ痛むことがあるが、全く無症状に経過することもある。
- ii) 歯根膜炎・・・細菌感染により神経が死んだもの。歯が浮いたような痛みがあったり、歯茎が腫れたりする。無症状に経過することも多い。
- iii) 逆行性歯髄炎、歯根膜炎・・・^{B B B B B B B B B B B B B B B B}歯周病（歯槽膿漏）により、^{はぐき}歯茎の回りから細菌感染したもの。虫歯の穴が全く無くても発症する。

II. 治療法

i) 永久歯

歯根の中の感染した歯質や汚れを除去し、消毒薬を用いて根管内を清潔にします。痛みが続く場合にはこの治療を数回くり返します。そして痛みが無くなった時点で細菌の侵入を防ぐために、根管内を最終的な薬剤で密封します。

また歯根の先端まで消毒を行いますので、消毒後や薬剤で密封した後に違和感が生じることもありますが、薬剤の一時的な刺激によるものであり2～3日で症状が軽くなるようであれば問題ありません。

歯根の治療が済むまでにはおおよそ2～4回の治療が必要になり、その後は歯に詰め物をしたり被せるための治療に入ります。

ii) 乳歯

消毒法は同じですが、永久歯との生え変わりに影響の少ない薬剤を根の中に詰めます。

